

## 平成30年1月八戸市教育委員会定例会会議録

開催日時	平成30年1月31日(水) 午後1時30分		
場 所	市庁本館3階 議会第1委員会室		
出席者	教育長	伊藤	博章
	教育委員	築瀬	眞知雄
	教育委員	油川	育子
	教育委員	武輪	節子
	教育委員	大庭	文武
事務局出席職員	教育部長	吉田	幸司
	教育部次長兼教育総務課長	橋本	淳一
	教育部次長	齋藤	信哉
	図書館長	千葉	玲子
	博物館長	古里	淳
	学校教育課長	小笠原	徹
	教育指導課長	木村	一夫
	社会教育課長	工藤	浩範
	是川縄文館副館長	清川	定吉
	総合教育センター所長	本間	孝浩
	学校教育課参事	大坂	吉弘
	西地区給食センター所長	川口	晃司
	是川縄文館参事	小保内	裕之
	図書館副館長	中村	武夫

## 開 会

(伊藤教育長)

定刻となりましたので、平成30年1月教育委員会定例会を開会します。

本日の議事録署名は、大庭委員を指定します。

それでは、はじめに私から、主な会議・行事等についてご報告いたします。

### 主な会議・行事等

(伊藤教育長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの報告につきまして、ご質問などありましたらお願いします。

[質疑なし]

(伊藤教育長)

これより議事に入ります。本日提出されております議案を審議します。

はじめに、議案第1号「八戸市社会教育委員の委嘱について」事務局から説明をお願いします。

### 議案第1号 八戸市社会教育委員の委嘱について

(工藤 社会教育課長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問などがありましたらお願いします。

[質疑なし]

(伊藤教育長)

それでは、議案第1号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

[異議なし]

ご異議がありませんので、議案第1号を原案のとおり決定いたします。

次に、議案第2号「八戸市基金の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について」事務局からの説明をお願いします。

### 議案第2号 八戸市基金の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について

(本間 総合教育センター所長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問などがありましたらお願いします。

〔質疑なし〕

(伊藤教育長)

それでは、議案第2号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

ご異議がありませんので、議案第2号を原案のとおり決定いたします。

次に、議案第3号「八戸市博物館条例の一部を改正する条例の制定について」事務局からの説明をお願いします。

### 議案第3号 八戸市博物館条例の一部を改正する条例の制定について

(古里 博物館長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問などがありましたらお願いします。

〔質疑なし〕

(伊藤教育長)

それでは、議案第3号を原案のとおり決定してよろしいでしょうか。

〔異議なし〕

ご異議がありませんので、議案第3号を原案のとおり決定いたします。

以上で、議案の審議は終わりました。

次に報告事項にまいります。

はじめに、「平成29年度第3四半期の業務報告について」は、事前に委員の皆さんから質問をいただいております。

### 【平成29年度第3四半期の業務報告について（質疑応答）】

(伊藤教育長)

まずは、4ページの「地域密着型教育推進事業」について、武輪委員からお願いします。

(武輪委員)

それでは4ページの地域密着型教育推進事業のコーディネーター研修会についてお伺いします。

今月26日に実践研究発表会に出席させていただきまして、発表会を聞かせていただきました。その中でもコーディネーターの方々が大変活躍されている様子を拝見させていただきまして、大変心強くうれしく

思いました。

一方で、地域によってはコーディネーターの担い手が見つからなかったり、円滑に事業を行うことが難しいところもあるかと思います。資料に記載されております11月28日開催のコーディネーター研修会において取り上げられた取り組みの課題についてお聞かせいただければと思います。また、それらの課題について教育委員会としてどのようなサポートを行っていくのか、またこれからしていくのかということが具体的にあれば、こちらを加えてお願いしたいと思っております。

(木村 教育指導課長)

お答えいたします。11月の研修会ではまず3つの学区から取り組みについての報告をしていただきました。そのあとグループ協議の中で各コーディネーターから各校の困っていることや課題等を挙げていただきました。

課題の主なものですが、まずは「コーディネーターを引き継ぐ人がなかなか見つからない」ということが一番多い意見でした。また、「活動時間の中で学校との打ち合わせ時間を確保できない」、「ボランティアの確保が難しい」、「ボランティアの高齢化が進んでいる」、「コーディネーターがどのような活動をしているのかまだ広く知られていないのではないか」、「PTAとの連携をどのようにしていけばいいのか」ということなどが挙げられました。

それに対して、まずはコーディネーターをうまく引き継ぐために複数配置すること。慣れている人と、これからやってもらいたい人を複数配置することによってその中で教えていくようにスムーズな円滑のために取り入れている学校もあります。

それから、コーディネーターによる活動の広報のために、コーディネーターには職員と同じように学校から名札を準備してもらうなどを行っております。

他には、小学校は小学校で、中学校は中学校でボランティアということになるとなかなか人材を探しにくいところもあるので、地区や学区としてボランティアの共有を図っている学校もあります。また教育指導課としてはこの研修会のみならず、なにか気が付いたこと、要望があれば随時学校から直接電話をもらうことを通して研修会の情報提供をしております。今後も継続していきながら、市教委としてはどの学校でも地域密着型教育は着実に進んできているととらえておりますので、もう少し学校とも協議をしながら、どのようにすればコーディネーターを活用しやすいのか、時間的な配置等も随時要望を受けながら進めていきたいと思っております。以上です。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。武輪委員、いかがでしょうか。

(武輪委員)

学校から随時電話をいただくというお話がありましたが、直接コーディネーターから教育指導課へお電話をいただくこともあるのですか。

(三角 教育指導課副参事)

担当の三角です。よろしく申し上げます。

直接コーディネーターから教育指導課へ、さまざま困ったことや、わからないことがあればご連絡いただいて、対応しております。あとは研修会等でアンケート用紙を配って、全体の傾向や問題点があれば把握しながら進めておりました。

(武輪委員)

それぞれのコーディネーターが困っていたり、いろんな形で進みにくいという問題点をお持ちのところもあると思います。今お聞きしている限りでは丁寧に対応されていると思うのですが、これからも各地域においてのコーディネーターに対して丁寧に、引き続き対応していただければと思います。よろしくお願いいたします。

(伊藤教育長)

ただいまの地域密着型教育の関連質問はございませんか。

(大庭委員)

今の質問に関連して、この間コーディネーターのジョイントスクールの発表の場に参加して感じたのは、八戸の地域密着型教育が大分浸透して、国全体の1つのモデルでもあるだろうと思っております。そこまで行っている中で、コーディネーターの果たす役割というものは本当に重要になってきている。これからますます重要になるだろうということを感じていました。その中で記憶に残っている言葉として、「ボランティアの方々の自己実現の場でもあるので、そのことも留意していくことがコーディネーターのとらえ方、考え方として必要だ。」それから「先生方の負担を望むものではない。」そして「日常的な存在としてコーディネーターを見ていただいて、いろんなアドバイスをしてほしい。」「日常的な存在として先生方、学校側もとらえていただければいい」そして、コーディネーターの発表を受けて、新採用の先生だったと思いますけれども、質問、意見、感想の中で、「教師の側からもコーディネーターに対して教えてくださいということも必要」だと発言していました。先生方、特に新採用の先生方がこういう場に出て、いろんな状況を学んでいく。これはまさに八戸市の教育、先生方の研修の一番いい機会ではないかという印象を持ちました。今後コーディネーターを含めた地域密着型教育がより充実した形になっていけばいいと感じたところです。以上です。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。この新採用が入っているということは、いつからでしたか。

(島浦 総合教育センター副所長)

総合教育センターの島浦です。

研修に新採用が入ったのは昨年度から、2回目であります。法定研修を中核市では行わなければいけないということで、新採用の方々からは非常に熱心な意見がたくさん出るので、非常に効果的だということも出ておりますので、次年度以降も継続していきたいと思っております。

(伊藤教育長)

昨年度から新採用の先生方を入れるという大変いい試みで、地域密着型教育とはなにかということ、コーディネーターの生の声を直接聞いて、それに対して手を挙げていた人の大部分が若い教員ということで大変いいことだと思いました。大庭委員がお話したとおりです。ありがとうございました。

地域密着型教育につきまして関連質問、そのほかございませんか。

[なし]

次に4ページの「教育研究指定事業」について武輪委員からお願いいたします。

(武輪委員)

研究指定校として第二中学校区で通級指導教室なり、特別支援について大石先生をお招きして取り組まれているようですが、八戸市内全体として特別支援を要する児童生徒に関わっている先生方の現状、課題、先生方の声をというものをお聞かせていただければと思っております。

(木村 教育指導課長)

今質問のありました教育研究指定事業は、指定された学校によってテーマは自由に選べるようになっております。第二中学校は八戸小学校、城下小学校との連携をして、特別支援教育、または教育の視点を取り入れた授業づくりを進めております。

市内全体の傾向ということになりますと、教育指導課より子ども支援センターのほうが全体をとらえていますので、そちらからの回答でもよろしいでしょうか。

(武輪委員)

はい、お願いします。

(本間 総合教育センター所長)

それではお答えいたします。特別支援教育の充実は八戸市としての課題の1つでございます。通常学級でも支援を必要とする子どもたちが増えておりますので、先生方が子どもたちの特性や障がいの理解を進めて、そして対応力を向上させていくということが絶対必要なことだと思っております。

八戸市内の教員は平成24年から、24、25、26の3年間でいくつか開設してある特別支援に関する研修講座を必ず1つ受講して、まずは理解を進めるというところを行いました。その後も研修講座の充実には努めてきておりまして、今年度は関係6講座を開設しております。また、教育指導課とともに学校訪問、計画訪問等に特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりに関して指導、助言を行っており、講座研修のテーマとして位置付けている学校もございます。一般の先生方の理解は確かに深まってきているのですが、今後も検討して指導、助言を続けていきたいと思っております。

また特別支援学級に関してですけれども、今年度平成29年度の八戸市内小中学校特別支援学級は知的、自閉、情緒、肢体、難聴、病弱、通級指導も含めて137学級開設されております。それぞれ担任の先生は校内事情を考慮しながら、各学校で最適な適任者を充てているということでございます。校内事情もありますので、必ずしも養護学校、特別支援学校の免許所持者が担当しているとは限らないという状況で、今年度は免許をお持ちの先生が3割程度ということになっておりました。

その中で今年度初めて特別支援学級を持つ担任の先生は約2割ございます。また0から5年度以内、年数が浅い先生方も含めると大体6割程度が5年以内の先生方という状況でございます。特別支援学級に関しては授業づくりとか保護者対応など、多くの専門性が求められているところですので、さらなる研修の充実を図らなければならないと考えておりました。教科等研究員、明日、明後日発表会がございますけれども、そこでも特別支援学級の授業づくりに関して先生方に研究をしていただいております。中核市でございますので、我々で研修講座を担当しているのですけれども、研修内容の質も向上していかなければならないと思っておりました。さらに次年度の予定ですけれども、県教委とも連携をして、県教委では県のセンターで特別支援教育新担当教員研修講座というものを開設しております。非常にきめ細かくやっているのですけれども、そこでの講座も一緒に受講して、県内の教員と情報交換をしながら専門的に学んでいこうということを計画しております。

また市内には高等支援学校や、第一養護、第二養護、盲学校、聾学校がございますので、そちらの特別支援学校との連携も進めていきたいと考えておりました。来年度開設予定の特別支援学級の授業づくりに関しては、その養護学校等の先生方にご一緒していただいて、指導、助言いただければと思っています。

さらに先ほど条例の変更等ありました国内、海外研修事業でも、支援学校と一緒に勉強できる機会も増えればということで、連携を密にしていこうと現在考えております。以上でございます。

(武輪委員)

これからますます力を入れていかなければいけないところだと思います。八戸市として専門性のある教員の育成、環境の整備というものに関して特に考えているということがあればお伺いします。

(本間 総合教育センター所長)

対応する子どもたちはさまざまでございますので、学校が変わってこういう子どもたちもいれば、こういう子どもたちもいるということで、決して先生方が1人で抱えることなく、校内の支援体制等も含めて、指導を続けていきたいと思っておりました。

(武輪委員)

はい、ありがとうございました。

(伊藤教育長)

ただいまの教育研究指定事業について関連質問はございませんか。

[なし]

それでは次に8ページの「八戸市いじめ問題対策連絡協議会」について、武輪委員お願いします。

(武輪委員)

こちらは平成29年度第1回八戸市いじめ問題対策連絡協議会とあるのですが、出席者を見ますと子どもたちに関わるあらゆる団体、部署の方々にお集まりいただいて協議会が開かれているようですが、教育委員会から当市の実態、取り組み等のお話をされて、出席者の方々からご意見、ご感想、反応というものはどのような状況であったかということをお聞きしたいと思います。

(木村 教育指導課長)

お答えいたします。第1回の協議会ではまずいじめ防止の基本方針について、国の部分で変わってことを受けて、例えば、「けんかもいじめの対象になる」、「学校でのいじめへの取り組みも学校評価の項目に加えなさい」など、一部変わったところがありますので、それを受けて県、市も変わったという概要を説明いたしました。

実態についての報告、28年度の数値を基にすると、27年度に比べては小学校、中学校とも認知件数が増えている。ただこれはいじめ自体が増えたのではなくて、各校において積極的にいじめの認知を行ったこととか、子どもたちや教職員、保護者のいじめに対する危機意識の高まりから認知件数が増えているものにとらえていると報告しました。

ただし、八戸の小中学校では認知件数は増えたのですけれども、解消率も高い傾向にあるということで、学校の取り組みもしっかり行われていると思っております。

いじめの様態につきましては、小学校、中学校とも「冷やかし」、「からかい」、「悪口」、「嫌なことを言われる」、「仲間外れ」、「集団による無視」。小学校につきましてはこれに加えて「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたりする」ということがありました。

いじめ発見のきっかけについては本人からの訴え、定期的に行っているアンケート調査からの発見が一番多く、それを基に学校が早期に対応しております。学校の取り組みの具体的なものとしては、学級担任、教科担任等による児童生徒の日常的な観察の強化、児童生徒との会話、生活ノート等を通しての悩みや心の変化を早めに察知し、気が付いたところは教育相談等を行った。保護者等からの訴えについてもきちんと耳を傾け、早めに対処するというように進めております。家庭との連携の面でも進めております。

教育委員会の取り組みとしては、いじめに関わる教員に対する研修、校長会等を通して常に命最優先の学校経営、学年経営、学級経営をお願いしております。学校で気が付いたところは早めの報告、教育指導課青少年グループ訪問、生徒指導に関わる訪問による情報収集、スクールカウンセラー、今年度から配置しているスクールソーシャルワーカーの活用といったことで学校には支援をしております。

子ども自体への取り組みとしては、小学校の児童代表によるいじめの問題についての対話集会の開催、中学校においては生徒会役員交換会での意見交換といったものを行っております。以上が本市の実態と市教委の取り組みについて話した内容です。

出席した方々からは、1つ目に、いじめの対象というものはどの範囲なのかということが出されました。これは子どもたちの中で一定の人間関係にある児童生徒同士について事案が対象になるという答えをしました。その中には発達障害、その疑いのある児童生徒もおりますので、加害面、被害面においてもしっかりと体系を調査し、早めに対応することが求められているということも報告しました。

2つ目は、いじめに至らないよう相手の立場に立って考える態度を育てるにはどのようにするのかということがありました。まず学校において主なものは道徳の授業を中心に教科、学級活動等、教育活動全体を通して思いやり、自他の命を大切にすること、ほかの子どもと協力することと指導しております。

3つ目は、いじめを本人がやめさせられなくても大人に知らせるとあるが、子ども同士の関係では知らせたことにより新たないじめの対象になるのではないかと。これは今に限ったことではありませんが、そういったことが危惧されるのではないかとということがありました。それについても定期的アンケートとか、日常の対話の中から察知した場合には秘密を守ること。いじめられている子どもをきちんと大人が



守るという毅然とした態度をとるとのこと。それから子どもから見ると担任に言えば、または部活の顧問に言えば解決してもらえ。そして自分も守ってもらえるという安心感を持ってもらうことが大事だと思っておりますので、それについては日常における子どもと教員の人間関係の構築が大事であると思っております。子どもに対しては引き続きいじめを知らせることが自分も仲間も守ることにつながるということを指導していきたいと思っております。

最後に、出席した方からは2つの意見が出されました。

1つは、昔は互いに多少きつい言葉を言い合ったりしてもそこはそれで済んだ。ただし言うてはいけないこと、やってはいけないことはちゃんとわかっていたはずなのだけれども、今の時代は少しきつい言葉をかけた、それ自体がいじめとしてとらえられてしまうこともあるということなので、深刻ないじめに発展する前に相手を思いやり、相手の立場に立って考える態度を育てていくことが大切なのではないかという意見が寄せられました。

もう1つは、学校において生徒会がいじめの問題について自主的に取り扱う事例があると聞いている。子どもたちが主体となって取り組んでいくことが重要である。これにつきましては先ほど申しあげた市内全体での生徒会では行われていますが、各学校でもそれぞれの生徒会または児童会の中で、子どもたちの中から意見を集めて、自分たちで解決していこうという動きも出てきております。以上のことを報告またはご意見を伺いました。以上です。

(武輪委員)

丁寧なご説明ありがとうございました。八戸市内で11の団体の方々が集まって、八戸市の子どもたちのために話あっていただけるということは大変うれしいこととあります。貴重なご意見をいただいて、それをまたさらに進めていっていただきたいと思っております。年度内で協議会は何回くらい開催予定ですか。

(木村 教育指導課長)

例年は2回開催しております。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。ただいまの「いじめ問題対策連絡協議会」等について関連質問はございませんか。

[なし]

それでは次に9ページから11ページの「公開講座開催促進事業」について、武輪委員と大庭委員のお2人からご質問をいただいております。最初に大庭委員からお願いいたします。

(大庭委員)

10ページの現場見学会親子ツアーについてです。具体的にはどのような現場を見学して、どのような様子であったのか。さらに、もし参加者の感想等があれば教えていただきたいと思っております。質問の意図は現在の小中学生が社会で活躍する10年、20年後には人工知能や情報機器の発達で現在の職業が半減するだろうという状況の中で、今の小学生、中学生はどう自分で対処、判断し、行動していくか。より主体的な関り方が求められていくと思っております。そのようなことを踏まえて、例えば中学生が高校を選択する場合に

専門高校にするのか、普通高校にするのか、またはそのあとの3年をどう考えるのかなどといった、とらえ方が必要になってくると思うのです。専門高校か普通高校かの選択は、そこで大体進路が決まってくるということになってくるわけです。そういう判断材料や機会を増やしていくことが必要なのではないかと感じております。確かにインターンシップ等もやっているわけですが、今回は親子でということで、その内容についてお聞かせいただければと思います。

(工藤 社会教育課長)

それでは質問にお答えします。まずどの現場を見学したのかについてでございます。見学ルートでございますが、はっちを出発したあと、車窓から八戸市屋内スケート場建設現場、新大橋、シーガルブリッジ、ポートアイランド、八戸大橋を見学してございます。そのあとマリエントで休憩を取ったあと、高規格道路八戸久慈道、環境テクノサービス八戸改良土センター、八戸市一般廃棄物処分場、八戸西スマートインター建設工事をバスから降りて現場見学したあと、はっちで解散となっております。

次に見学中の様子、参加者の感想でございます。バスでの移動中、車内で退屈した子どもさんもいらっしまったようですが、保護者の方々につきましてはバスの中で非常に興味深く、おもしろく聞くことができたというお話を伺ってございます。

参加者の感想につきましては、アンケートでは8割を超える方々が「楽しかった」と回答しているほか、自由記述の欄では「見たことがなかった」「建設現場を見学できておもしろかった」「土木技術が建設現場において多岐にわたり活用されていることがよくわかった」という声が、保護者、子どもに関わらず上がっております。

その他の意見として、「寒かったので暖かい時期に実施してほしい」「親子バスツアーなので、もう少し子どもが遊べる場所など、楽しめる現場にも行きたかった」という声も上がっております。土木関係、建設現場関係なので少し子どもには難しかったのかという感想を持っているところでございます。以上です。

(大庭委員)

最初の質問意図で私が求めたものは、対象が親子なので少し難しすぎたと今反省しています。楽しかったとか、いろいろ現場で感じたことが生かされていけばいいと感じました。ありがとうございます。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。それでは次に武輪委員、よろしく申し上げます。

(武輪委員)

こちらの公開講座開催促進事業というものが昨年から始まったと思いますが、昨年に比べて講座内容も大変充実して増えたという印象を持っております。内容も本当にさまざま、参加人数の多いところでは100名を超えているところもあるようです。こちらの費用についてですが、事業に対して補助を行い開催しているのかお聞きしたいと思います。

(工藤 社会教育課長)

それではお答え申し上げます。公開講座開催促進事業につきましては、八戸工業大学、八戸大学、八戸

工業高等専門学校との協力を得て実施している事業でございます。

講座開催にかかる費用及び補助金等の支出についてでございます。まず講師料についてですが、主催者によって異なっております。教育委員会が主催して大学等に講師を依頼している場合のみ、講師料として3万円をお支払いしているところでございます。大学等が主催する場合については、主催校の先生を講師として付けているところは自前で講師を用意でき、業務の一環として実施していることから、各大学から講師料は不要ということで申し受けておりますので、市から講師料は支払ってございません。講座の開催にあたりまして教育委員会以外の者が主催する場合、主催者に対して市から払っているものは先ほど申し上げた講師料のみであって、それ以外の補助金は支出してございません。ただ、主催者に関係なく教育委員会が主催、または共催となっている場合につきましては、いずれの講座におきましてもチラシの作成配布、報道PRのほか、使用料の減免の手続きは当方で行っているものでございます。そのためかかる費用とすればチラシ作成のための用紙、インク代として約5,000円ということになってございます。以上でございます。

(武輪委員)

参加した方々へなにか作成するにあたっての材料費等も市から補助ということもなく、例えば、工業大学が行っている場合は工業大学で材料費などもまかなっているような状況ですか。

(工藤 社会教育課長)

講座開催にあたって物品等を作成する場合については実費負担ということで、若干参加者から徴収しているものはございます。それ以外はほとんど主催者のほうで負担している形になってございます。

(武輪委員)

いろいろなものに興味がある子どもたちにとってはどんなことに興味を抱いて、大庭委員もお話されていましたけれども、将来のことにつながるきっかけというところではとてもいい講座だと思っていますので、また充実していければいいと思っております。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。この公開講座開催促進事業についての関連質問はございませんか。

[なし]

それでは次に11ページの「成人式準備協力会」について武輪委員、お願いいたします。

(武輪委員)

業務報告では6回の会議、そして事業予定には7回、8回、9回と記載がありましたので、1月7日の成人式当日まで9回にわたって会議を行っていらっしゃるようです。今年の成人式開催にあたっての準備協力会のメンバーの方々から「こんな成人式はどうか」というようなお話が出ればその案について。また、新聞報道などでもいろいろポスターの作成などもありましたが、実際に協力会のメンバーから出たもので、実際に当日のプログラムに取り入れたものについてお聞きしたいと思っております。

そして、合唱曲の選曲についても、お話いただければと思います。

(工藤 社会教育課長)

まず成人式準備協力会についてでございます。新成人自らが成人式を企画運営し、成人式をつくり上げていくことによって、新成人としての自覚及び社会参画意識の向上を目的として平成27年度より設置しており、今年度で3回目の取り組みとなっております。メンバーにつきましては市内各大学、八戸高専等からご推薦をいただき、今回は16名の学生で組織してございます。会議の開催については当初、全9回を予定しておりましたが、内1回につきましてはメンバーの都合がつかなかったことから全8回の開催になっておりまして、参加人数は延べ51名でございます。

会議の中で協議されたことにつきまして、主に会場の装飾について意見交換が行われております。メンバーから出された意見としては会場入り口への造花の装飾、写真撮影用のパネルボードの作成、市庁ロビーに展示してある八戸三社大祭山車の設置などの案が出されております。その内、「新成人が生まれた年の話題などを紹介する吹き出しの作成」、「八戸市の魅力や取り組みを紹介したパネルの作成」、「学校給食を紹介するボードを作成し人気投票をしてもらおう」の3つの案が採用されてございます。

次に、成人式における合唱曲の選曲につきましては、今回出演を依頼しました根城中学校、白銀南中学校、県立八戸東高等学校の3校の顧問の先生方と市教育委員会の担当者による協議を行いまして、青春時代の切なさや、仲間との絆、楽しかった日々を思い出していただき、新成人としてこれから八戸市をつくり上げていってほしいとの願いを込めて選曲したと聞いております。今回選定した曲についてですが、まず1曲目は新成人の多くが中学校の修学旅行で鑑賞いたしました劇団四季のミュージカル「ライオンキング」から「サークルオブライフ」、2曲目は2016年NHK音楽コンクールの課題曲「結」、そして3曲目は新八戸市民の歌「新しい風」の3曲となっております。以上でございます。

(武輪委員)

「ライオンキング」と「結」の2曲に関しては準備委員会から出たということではないのですか。

(工藤 社会教育課長)

はい、そうです。

(武輪委員)

はい、わかりました。来年に向けて準備委員会の方からも選曲についてお聞きしていただければと思います。

新八戸市民の歌の「新しい風」について申し上げたいと思います。私はその歌をとってもいいと思ひまして、成人式で歌うことについて私は賛成しております。八戸市で育った子どもたちが想いとして持っていることはとてもいいことだと思うのです。この新八戸市民の歌も成人式以外の場で、例えば市の夏季体育大会で歌うなど、どこか違う場面でも歌う機会が増えれば、成人式のときも、もっと私たち八戸市民の歌なのだという想いが出るのではないかと思います。成人式のところで思い出の歌として歌えるくらい別な場面でも、社会教育課だけでなく、いろんな場面でこの歌を歌う機会が増えて成人式に臨むようになればいいと感じております。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。

この成人式の準備協力会についての関連の質問はございませんか。

[なし]

それでは次、13ページの「管理運営事業」について武輪委員からお願いいたします。

(武輪委員)

13ページの是川縄文館ですが、さまざまな事業を展開しPRされて、リピーターの方もたくさんいらっしゃるのだと思うのです。しかし、市民の方々が未だに是川縄文館に足を運んだことがなく、合掌土偶を見たことがないという方が結構いらっしゃいます。そういう方々に来館していただきたいという思いもあるのですけれども、本館入館者5,216名とありますが、市内から来ていらっしゃる方なのか、また男女別や年代別ではどういう方が来館していらっしゃるのか調査したデータがあればお聞きしたいと思えます。またこれからそのような調査をする予定があるかもお聞きしたいと思えます。

(清川 是川縄文館副館長)

事業ごとにアンケートはとっていないので各事業の来場者については把握していないのですけれども、常設展示、企画展、特別展において平成25年度よりアンケート調査を実施しております。今回、常設展示についてのアンケート集計結果の概要をお知らせしたいと思います。設問は性別、年齢層、住まい、目的など9項目ございます。来館者の住まいの地域については、八戸を含む三八地域が4割と最も多く、三八地域を含めた青森県内では5割を超えております。青森県県外からは5割弱程度で推移しております。年代別では10代が3割弱と最も多く、次に60代、40代、50代となっております。性別では女性が5割強、平成28年度は56%、27年度は57%となっております。

来館の目的としては展示見学が5割以上と最も多く、観光や余暇のくつろぎなどが挙がっております。展示で最も印象に残ったものは国宝土偶で3割強を占めて、次に漆の美の展示室、シアター。初めて来館される方は7割強と多いのですけれども、2回から5回の来館者も2割を超えるリピーターも獲得しています。以上です。

(武輪委員)

もし可能であれば、男女別での来館者のチェックを行い、今後の事業でどういうものを企画、実施していけばいいかというものに対しての目安等を考えてみてはどうかと思っております。私も機会を設けて是川縄文館に関してのPRをしていきたいと思っております。青森県内に国宝が3つもあるのに見たことがないという方は勿体無いと思えますので、これからもまたPRをよろしくお願いたします。

(伊藤教育長)

武輪委員のおっしゃるとおり、市民の方でまだ1度も来館したことがないという人が少なからずいらっしゃると思うので、周知の方法を工夫して、1人でも多く来ていただきたい。八戸の宝だけではなく、県、国の宝でもありますので是非周知の方法を新たに考えてみればと思えます。

ただ今の管理運営につきまして関連質問はございませんか。

[なし]

それでは最後 20 ページの「図書館相互利用事業」について、武輪委員からお願いします。

(武輪委員)

20 ページの図書館相互利用事業ということで、青森県内の共通利用券の提示が不要で八戸市立図書館も利用できるという事業が始まって、利用状況はどうかということをお聞きしたいと思っておりました。まず時期的に天候が悪かったり、足元が悪かったりで、なかなかこれからのことではあると思うのですが、始まりましたのでお聞きしてみたいと思いました。お願いいたします。

(千葉 図書館長)

それではお答えいたします。図書館相互利用事業というものはいま武輪委員がおっしゃってくださったとおりですが、八戸圏域連携中枢都市圏、8市町村の住民が住所地の図書館が発行する青森県内共通利用券がなくても8市町村内に居住している身分証明等で確認し、図書館利用カードを作成できるというものでございます。

利用状況なのですが、他の7町村の方が八戸市立図書館の本を借りるために新規に利用者登録をした人数です。昨年相互協定を締結いたしました12月1日以降、昨日1月30日までの2カ月間の登録者数は46名の登録がございました。昨年度の同時期は14名でしたので、32名の増となっております。この数値から相互利用の効果が出ているものと私どもは見ております。

もう1点、八戸市立図書館が発行する県内共通利用券の発行人数です。こちらも去年の12月1日以降、昨日1月30日までで4名、昨年の同時期は29名でしたので、連携8市町村について共通利用券は不要ということが周知されていることを実感しております。以上です。

(武輪委員)

八戸市以外の方々にも利用していただいて、皆様の憩いの場といたしますか、そのように使っていただけるといいと思いますので、また引き続きPRをよろしくお願いいたします。

(伊藤教育長)

ただ今の図書館相互利用事業について関連質問はございませんか。

[なし]

それではそのほか業務報告について、皆さんからなにかございませんか。

[なし]

ないようですので、次に移ります。

次に、「平成29年度第4四半期の主な事業予定について」も委員の皆さんから事前に質問をいただいております。

#### 【平成29年度第4四半期の主な事業予定について（質疑応答）】

(伊藤教育長)

まずは、4ページの「教育施策の市民啓発事業」について、大庭委員からお願いします。

(大庭委員)

はっちでの「教育の広場はちのへ」の開催についてです。まずは準備された方々にはねぎらいと感謝の意を表したいと思います。

ステージ部門においては生徒の活動の紹介・発表が非常に堂々として自分を表現しているということを感じました。参加した児童生徒があのような場で発表の体験ができるということは、非常に今後の大きな自信等になっていくのではないかと感じておりました。

展示部門では世界一大きな絵にまず圧倒されました。市内小中学生がそれぞれ割り振られた箇所を分担して、統一された1枚の絵を完成させました。しかも、使われている色は基本8色であるという説明を受けて、八戸を代表する蕪島、三社大祭、えんぶりを基本8色のペンでとても豊かな色彩をもって描き出せるのだということにも驚きました。

そこで質問です。開催した日と次の日の2日間は展示されていたわけですが、完成した絵を参加した児童生徒はなかなか見る機会がないと思うのです。おそらく子どもたちは全体像が示されながら、自分ほどの部分を担当しているということはわかりながら取り組んでいたと思うのですが、是非機会があればあの完成した色彩豊かなあの絵を子どもたちに見せる機会をつくれませんかということです。さらには、市制施行88周年の記念事業としても取り組まれたものですので、もっと市民の方々にも見ていただく機会等をつくれませんか。いろいろな苦労があるかと思いますが、それを承知の上でいかがでしょうか。

(木村 教育指導課長)

まず「教育の広場はちのへ」の開催につきまして、教育委員の方々にご来場いただきありがとうございました。

中学校の美術研究会の全面的なバックアップを受けて、デザイン、それから学校への割り当てを行いました。大きさ、デザインの立派さもさることながら、何よりも価値があるのは児童生徒、それから教職員、たくさんの方が携わってあの1枚を仕上げたということがあります。そういった意味では大変意義のある作品だと思っております。

私たちとしても絵の展示を2日間だけ終わるのはもったいないと思っております。取組んだ子どもたちに見てもらいたいということがあります。そこで初めに候補にあがったのが八戸駅の自由通路でした。スペース的には何とかなるのですが、素材が紙であるということで防火の観点から対処できないということでした。次の候補ユートリーです。ユートリーの展示場所はあるのですが、スペースの問題で絵の一部しか展示できないということで、現時点では検討中です。いいアイデアがありましたらよろしく願いいたします。

参考までに今年度のアンケート結果についてご報告いたします。「オープニングの根城中学校の合唱、ジャズ、バトンなど、子どもたちがステージ発表した催しには皆さん感動し、涙が出ました」ということがありました。「八戸の教育を知り、八戸の未来を感じました」ということと、「活動発表は内容や話し方もよく、指導にあたった先生方もご苦労したと思いますが、大変いいものになりました」という肯定的な意

見がありました。

今回は他団体の催しの関係で、いつもは広くスペースを取って行っていたアンケートですが、受付場所に設置していたためアンケート数は少なくなっておりますが、配付したプログラムの枚数、それから2階、3階から観覧している方々の人数を見ると、昨年度よりも増えてきていると感じました。これは私たちもさまざまな方法で学校に働きかけましたが、学校側も積極的に子どもたちに働きかけてくれたこと、それから油川委員の文化幼稚園さんでは幼稚園のブログでも配信していただきまして、幼稚園、保育園でも周知を図ってくれたことがよかったと思っております。

今後については、十分に協議して検討していきたいと思っております。以上です。

(伊藤教育長)

ありがとうございました。

展示については現時点で検討中ですが、大庭委員がおっしゃったとおり、せっかく作成したもののなので、少なくとも児童生徒が自分の作成した箇所はどこなのか是非見せてあげたいと思っております。

そのほか今の関連質問はございませんか。

(油川委員)

私も世界一大きな絵を拝見して、素晴らしいと思いました。1万8,000人の児童生徒が同じ目標をもって、心を1つにして1枚の大きな絵を完成させたということはとても意義深い、素晴らしい取り組みであったと思います。これまでのお話にありましたように、是非多くの児童生徒、それから市民の皆さんにもお見せる機会があればと思います。八戸駅は木村課長がおっしゃったとおり、安全面の事情で難しいということだったのですが、教育長からもありましたけれども、是非早い時期により多くの人が見ることのできる場所を考えていただければと思いました。

ステージ発表も素晴らしくて、児童生徒の皆さんの地道な努力の1つ1つの積み重ねが心を引き付けられる発表につながったことと頼もしく思いました。特に印象に残ったものなのですけれども、新聞の活用についての発表です。今年度より各小中学校に新聞が設置されましたが、その活用方法について工夫したことを中心にお話をしていました。新聞を読まない人の理由を調べてみると、内容が難しく理解できないためということでした。このことについて解決の糸口を探るために、新聞をよく読んでいる友達にインタビューをしたところ、難しい内容の記事はあらかじめテレビでニュースを聞いたあと新聞を読むことで理解が得られやすくなるということを教えてもらって、その後そのことを実践し、積極的に新聞を活用していきたいという前向きなお話を聞くことができました。この新聞活用事業については昨年8月の総合教育会議で市長が議題に上げてくださり、実践されたわけですが、教育の現場において工夫する、考える、活字に親しむ、社会に目を向ける心を育むということにつながられ、現場において生かされていることをとてもうれしく思いました。

それから三浦哲郎青少年少女作品集につきましても、この事業の立ち上げの目的と経緯について教育長よりご説明があり、地域の特性を生かした八戸の教育力を改めて認識することができました。

全体をとおしての感想なのですが、「教育の広場はちのへ」をとおし、八戸市教育委員会は八戸市の児童生徒の一人一人を大切に育てているということが伝わってまいりました。小学校、中学校の周年式典の教育委員会告示の中に「八戸市教育委員会は生きる力を育む学校教育の充実に全力で取り組んでいるところ



であります」というフレーズがあります。まったくそのとおりであり、現実のものとして実感することができました。とてもいい啓発事業であったかと思います。ご準備大変お疲れさまでございました。

繰り返しになりますが、来年以降多忙化につながらないようにであればずっと続けていくということではなくて、そのときの状況に応じて継続していただけたらと思います。ご準備等ありがとうございました。以上です。

(伊藤教育長)

そのほか、なにかございませんか。

(築瀬委員)

5ページの19番です。報告では7ページの16番で、青少年の地域活動事業について挙げられていました。質問ではなくて、感想と要望です。

今年度の報告の中には湊たんけん買物ウォーク、チャレンジランキング大会という、今まで取り上げられていなかった行事が載っています。それから、うみねこコンサートや成人式ボランティアなど、市の行事のボランティア活動は記載されているのですが、地域の子ども会活動での青少年地域活動事業が少し薄いような感じがしていました。

子どもたちは学校で育つということもあるのですが、地域で育つ。これは地域密着型の根本なのです。地域で育つときに子どもたちの地域での活動が段々衰退しているということが現実ではないかと思います。特に子ども会は衰退の一途を辿っている。そういった部分にも目を向けて、この青少年の地域活動、ボランティア活動を強調していくような働きかけも非常に大事だと思って、今回の報告は地域活動を取り上げていいと思って見ていたものですから、市主催の大きな行事ではなくて本当に地域を盛り上げようと頑張っている活動に目を向けてほしい。教育委員会だけでは厳しいところもあるので、まちづくりや地域の活性化の市全体の事業とも関連させながら、地域活動への支援を教育行政側もできる範囲で取り上げていくといったことが大事かと思っています。

最後に、青少年の地域活動で「(中・高生)」となっていますが、要望として私はここに小学生のボランティアといった面もこれから大事になるのではないかと思っていますので、力を入れて頑張ってください。私も一緒に頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

(伊藤教育長)

ありがとうございます。地域を盛り上げようという視点でのボランティア活動を進めてほしいというご要望ですので、可能な範囲からの支援というお話でございました。

そのほかございませんか。

[なし]

それでは次に「第21回図書館を使った調べる学習コンクール」(全国)優良賞入賞について」事務局から説明をお願いします。

### 【「第21回図書館を使った調べる学習コンクール」(全国)優良賞入賞について】

(千葉 図書館長 資料に基づき説明)

(伊藤教育長)

ただいまの説明につきまして、ご意見・ご質問などがありましたらお願いします。

[なし]

そのほか、事務局から報告事項はありますか。

[なし]

事務局からは以上のようなようです。

それでは最後に「その他」ですが、委員の皆様方からなにかございますか。

(油川委員)

先日行われました「ふれあい作品展」、私も楽しませていただきました。児童生徒の皆さんが作った作品の1つに一本釣りのおみくじがあったのですが、それをやってみてくださいと男性の方がおっしゃって、どきどきしながら釣ってみたら、見事大吉が出ました。そして、その横に今度は三角のおみくじがあつて、それを引いてみましたら、今度はその男性のお子さんが今度はこっちをやってみて、何をしたらいいことがあるか書いてあるよというようにして話してくれたので、それも少しどきどきしながら選んで引いたのです。その中には「おしるこを食べるといいことがある」と書いてありまして、さっそくおしるこを食べたのです。これから1年間、1カ月に1回は食べたいと思っていますところ。心から元気にさせてもらったひとときでした。児童生徒の皆さんの目がとても輝いていました。その子どもの表情は指導して下さる先生方の鏡になっているのではないかと思います。指導して下さっている先生方に敬意を表したいと思いました。いつもありがとうございます。以上です。

(伊藤教育長)

そのほか、なにかございませんか。

[なし]

## 閉 会

(伊藤教育長)

それではこれをもちまして平成30年1月の教育委員会定例会を閉会いたします。

(午後3時6分閉会)